

1日・元旦マラソン、市民元旦登山（鳳凰山）  
10日・市民体育馆前に屋外スケートリンクがオープン  
25日・第一回市民歩くスキーの集い

◆長根山ジャンプエ復活  
全日本選抜ジャンプ大会



# 1981年の あしあと



心に残る一冊の本

伊藤修一郎

A small, square-framed portrait of a man wearing glasses, a dark suit, white shirt, and a dark tie. He is seated at a desk with papers in front of him.

家に古い本箱があつた。鉄の錠前のついた前蓋で閉ざされていた。書函と墨で書かれていたから、或は書類箱であつたかも知れない。すきを見て錠を持ち出し本箱を開けて見た。本多は予想した通り複数の書類や和紙の大半が、今本のようものは十冊、里見八犬伝などのダイジェスト版風のものだったが、その中に背皮金文字装訂の部厚いものが二冊あった。「狐の裁判」と「ヴェルクター」である。ゲーテの作品だ。どうしてこんな本がわが家にあるのかと思いつつこれを手にした。

ちを選ばねばならぬ……愛の厳しさと、痛ましさと驚き、その愛に共感され覚えた。その後「ゲルルタ」は「若きゲルルテの悩み」の書名で出るようになった。昭和初期の日本洪水時代に一度「若きゲルルテの悩み」で読んだ。今もう一度「若きゲルルテの悩み」で読んだ。今でも愛する者の切なさをかみしめかみしめ読んだ。僕の人生觀に何かを与えたに違いないと思いつ出すこともある。それはそれとして、あの本籍にもっと多くこの本があつたら、僕の少年時代はもっと楽ししく、そして僕の生涯も別なものになつたかも知れない。

あなたは年間何冊の本をお読みですか。市立栗森図書館の昨年中の貸し出し総数はおよそ4万2千冊、市民一人当たり平均0.6冊になります。広報では今月から図書館コーナーを設け、いろいろな図書情報を皆さんにお届けしていきます。また、心に残る一冊の本と題して皆さんの読書体験記も併せて掲載します。

# な心 図書館コーナー



“おおとり号”巡回日程